

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也
[http://www.s-kinder.com /index.html](http://www.s-kinder.com/index.html)

●2～3月のひとコマ



<築山ができた!>



<なわとび大会(年長)>



<泥団子作りの列(年少児)>



<豆まき(1歳児・5歳児(鬼))>



<な～もの森(2歳児)>

1年間ありがとうございました。

今日から3月。本年度最後の1か月となりました。昨年の1月に新型コロナウイルスの感染者が国内に発生して以来、行事や園生活を例年と同じようにはできなくなったこともあり、保護者の方もご不安・ご心配の尽きない一年を送られたかと思います。中止とした行事もありましたし、内容変更して開催した行事も多くありましたが、このような困難な年を乗り越えてこられたのも保護者の方のご理解・ご支援の賜物だと心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスへの知見や情報がまだ乏しかったころ、当然ながら職員も同様に不安を抱えていました。乳児から12歳(児童クラブ)までの子どもたちの保育を行うという現場の中では、子どもたちのくしゃみを正面から受けたり、体調不良となった子の対応(お迎えまでの)をしったりということは毎日のようにあるわけです。情報が少ないが故に、感染したら最悪の場合は死亡するリスクがあるという不安や恐怖が前面に押し出されるのも無理はありません。

どういうことに気を付けたらよいか、少しづつ示されたり、幸いにして薩摩川内市では他の地域に比べて感染者が多くなかったりしたことで、「我々が今、何をしたらよいか」、少しづつ前向きに考えていけるようになったように思います。

全国を対象とした緊急事態宣言が発令されたときにも、「外に出られない子どもたちに何かしらできることを考えたいね」と呼びかけると、今までやったこともない子どもたち向けの動画作りに取り組んだり、連休中の園庭開放のお手伝いをしてもらったりと、先生たちの前向きな姿勢にも助けられた1年でした。

園長となった1年目から「昨年通り」が通用しない試練の年となりましたが、今思うとひとつひとつの物事の意味や価値をじっくりと考えたり、見つめなおしたりする有難い機会を頂いたのだと感じています。オンラインの可能性やICT機器の活用、長期休みでも子どもたちと繋がることのできる動画というツール、など、「昨年通り」では気が付かなかつたいろいろなことを学べた一年となりました。至らぬ点も多々あったかと思いますが、子どもたち、保護者の方、先生たち、地域の方々、たくさんの人たちに支えていただきました。進学・進級まで残りわずか。幼稚園での経験や思い出が子どもたちのこれからの支えとなるべく、過ごしていきたいと思います。1年間どうもありがとうございました。(年長さんで、就学後気になることがあった場合にもご遠慮なく園にご相談ください。)